

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	スーパー（店 長）	販売量の動き	・販売量は前年並みではあるが、1月以降、右肩上がり に販売量が伸びている。
		コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・人口減少、工事減少と依然として環境が悪化してい るなか、競合店の出店が相次いでおり、業界全体が厳 しい状況にある。しかし、当社においては単価が減少 している一方で、来客数が前年を上回るなど回復傾向 にあり、流れは悪くない。
		コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・気温の上昇が売上をけん引している。また、食品の 値上げが相次ぐなかで、客が今まで以上に安い商品 を買い求める傾向が強くなっている。メーカーよりも 安いプライベートブランド商品を購入する習慣が客に 根付いてきた。
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・4～5月にかけての海外旅行の受注が順調である。 また国内旅行においても沖縄が好調である。
		観光名所（職 員）	来客数の動き	・3か月前に比べて、施設利用人数が32%増加してい る。前年と比べても24%増加している。
	変わらない	美容室（経営 者）	来客数の動き	・冬季には灯油高騰の影響で出費を控える意識が強 かったが、暖かくなってきたことで家計の支出が減少 したことと、ガソリンが安くなったことの相乗効果で 客の気分が楽になっており、購買意欲が高まっている 。
		商店街（代表 者）	販売量の動き	・気温の上昇に伴い、来客数が増えており、若干では あるが販売量が増加している。
		一般小売店 〔酒〕（経営 者）	単価の動き	・最近の傾向としては、主力商品である酒類が伸び悩 んでおり、その代わりに飲料水が堅調に動いている。 単価の低い商品が売れ、単価の高い商品が落ち込んで いるため、客単価が非常に低下している。
		百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・来客数をみると前年比85%と大幅に減っている。来 客数の減少がそのまま売上にも反映されており、今月 の売上は前年比86%にとどまった。また、今月はハウ スカード顧客向けの売出しがあったが、過去に記憶が ないほどの落ち込みようだった。平日も同様に来客数 の減少が目立っている。
		スーパー（役 員）	単価の動き	・スーパーマーケットは全体的に4月の売上が良いと の話を聞いている。当社においても売上が前年比 107%と好調であるが、1人当たりの平均買上点数は 若干低下傾向にある。生鮮食品における野菜や精肉の 相場高や、大手メーカーによる一般食品の値上げ等 により、客の消費金額は伸びているが、価格に対する先 行き不安からの仮需要のようにも感じられる。
コンビニ（エリ ア担当）	単価の動き	・来客数は維持しているものの、単価が前年を大きく 下回っているなど、厳しさは継続している。		
衣料品専門店 （店長）	販売量の動き	・様々な商品の値上がり、年金問題の影響などで、高 齢者が非常に困っている様子がうかがえる。		
家電量販店（店 員）	単価の動き	・前年と比べて客単価が低下している。駐車場に止 まっている車の台数も減っている。		
乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・暫定税率の取りやめの影響で自動車取得税が軽減さ れたことから、自動車業界全体としては上向きとなっ たが、今月限りの影響である。		
その他専門店 〔医薬品〕（経 営者）	お客様の様子	・個人店にとっては、顧客の取り込みが最後のとりで だが、家計も緊縮財政となっているのか、上位客へ出 すダイレクトメールの効果が薄れている。		
高級レストラン （スタッフ）	お客様の様子	・ゴールデンウィークを控えて全体的に動きが悪く、 例年と比べて週末の活気が足りない。		
スナック（経営 者）	来客数の動き	・総会が行われる時期で、総会後に懇親会が行われ る流れもあったことから、売上は前年より良くなってい るが、必ずしも景気が良くなってきている訳ではな い。		
タクシー運転手	競争相手の様子	・今年に入ってから、当社の売上は前年を上回ってい るが、同業他社の売上はすべて、前年を大きく下回っ ている。		

	タクシー運転手	お客様の様子	・約4か月前に運賃改定があり、その後しばらくは値上げの恩恵があったように思われたが、降雪期が終わり、4月に入ってからは非常に厳しい状況が続いている。特に夜間の出足が鈍く、繁華街での利用者が減少している。
	タクシー運転手	販売量の動き	・道路特定財源の問題に絡んで、国土交通省職員によるタクシーチケットの多額使用の問題が報道されたことで、公務員全体がタクシーの利用を自粛しており、利用者が減少している。
	通信会社（企画担当）	来客数の動き	・春商戦を終えたが、来客数や売上をみると、悪かった前年とあまり変わらない状況にある。
	観光名所（役員）	来客数の動き	・4月に入ってから、外国人観光客が若干増加しているものの、国内客の動きが鈍く、全体としては前年並みで推移している。
	設計事務所（職員）	競争相手の様子	・新年度早々の公共工事設計業務の入札で、各社が低価格での応札をしており、落札価格が予定価格の50%以下となる事態が生じている。官民共に建設事業投資が低調であり、建設業界の不調ぶりと先の見えない状況が暗示されている。
	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・モデルハウス等への来場者が少ない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・医療費問題、年金問題、福祉問題や値上げ商品の拡大など、様々な要因が高齢者の家計を直撃しており、生活不安を招いている。結果として商店街への来街頻度も落ちており、こうした傾向は今後も続く。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・天気の良い日が続いているが、客からは年金問題や食品の値上げ等で先行きを心配する声が増えている。客は、本当に必要な物しか買わない状況にある。
	商店街（代表者）	単価の動き	・天候の不安定さ、気温の上昇により、春物等のコートなどの動きが急に止まってしまい、平均単価が落ちている。また、諸々の物価上昇により、客の買物購買欲が落ちており、買い控えが起きていることも単価に影響している。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・生活必需品の値上がりで、外出や旅行気分が薄れている。また、観光客が旭川に流れており、市内での滞在期間が極端に短くなっている。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・催事の動きに変化がみられる。中国関係の催事に関しては来客数が激減している。一方、スイーツ関係の催事に関しては、非常に良い日と悪い日の差が大きくなっている。また、高温続きで天候に恵まれたものの、春物の一部で売上の減少がみられる。
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・消費者心理がまた冷えてきた。購買時の価格チェックも厳しく、簡単に買おうという気にはなかなかならない。また3月の気候が温暖で春物需要を先食いしたことも、購買モチベーションを下げる要因として働いている。
	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・3月下旬の売上動向は好調であったが、多くの商品の値上げが公表されていた4月上旬になると、買上点数の落ち込みがみられるなど、低調に推移している。価格値上げ前の仮需要が発生していたとみられる。
	スーパー（役員）	単価の動き	・単価が上昇している一方で、買上点数が減少している。
	衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・物価が上がっているのに、給与は変わらないとの声が多い。
	家電量販店（地区統括部長）	お客様の様子	・成約率が2割ほど落ち込んでいる。また、競合店の価格と見比べて値引きを要求されるケースが以前よりも増えてきている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	お客様の様子	・石油製品価格の高騰及び各種商品の値上げにより、消費が抑えられている。	
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク前のこの時期はいつも苦戦しているため、イベントや割引フェアを実施したところ、来客数は前年比146%と伸びたが、売上は前年比97%と、前年を下回った。市内ホテルを含めて、飲食業界は厳しい状況にある。	

	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・道外ツアー客の入込が良くない。外国人観光客の入込も良くない。個人客と企業・団体等の企画旅行客は好調だが、ツアー客の減少を穴埋めするまでには至っていない。インターネット利用客がじわじわと伸びてきている。
	観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・宿泊客全般の動きとして、3か月ほど前から来客数、消費単価が伸び悩んでいる。原油高やガソリン税等の問題から、消費者の購買意欲が鈍化しており、様々な企画を作っても客が飛びついてこない。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・例年、北海道の旅行需要は10月以降の下期に集中する傾向があるが、それにしても今年度の申込件数は少ない。前年度と比較しても需要がやや少ない状況である。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・旅行申込状況を見ると、ゴールデンウィークの行楽客の動きがあまり思わしくない。桜前線の動きが旅行商品設定時期と大きくずれ込んだことにより、販売面、旅行催行面に悪影響を与えている。ガソリンは安くなったものの、徐々に値上がりしており、自家用車を使って近郊に宿泊するような気軽な旅行をしにくくしている。旅行業界にとっては、好ましい材料が全くみられない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・例年であれば、4月は入学式や歓迎会などで忙しくなるはずだが、今年は動きがなかった。
	設計事務所（所長）	お客様の様子	・打ち合わせのなかで慎重な発言や悲観的な発言が目立つようになってきた。
悪くなっている	スーパー（店長）	お客様の様子	・様々な商品の値上げが相次いでおり、必要な物だけを購入したり、より安いセール時に購入するなどの動きがみられる。このため、特売時の売上が増え、通常時の売上が減る傾向がみられる。また、衣料品、生活用品の節約傾向も出ている。
	コンビニ（オーナー）	販売量の動き	・客の購買は低単価の商品に集中している。
	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・3月の中旬から、客足が極端に鈍くなっている。地上デジタル放送開始の効果も小休止といった状況である。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・3月と同様に、新規開業したホテルへの客の移動が顕著であり、来客数が落ち込んでいる。また、ゴールデンウィークを控えての利用控えもあるようで、全体的にレストラン利用が落ち込んでいる。
	タクシー運転手	来客数の動き	・例年よりも暖かく、雨の日も少なかったため、タクシーの利用客は前年よりも減っている。夜間のタクシー利用は、年末から減っているが、暖かくなると昼間の利用も少なくなる。
企業動向関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	-	-
変わらない	輸送業（経営者）	取引先の様子	・輸送関係では、燃料高騰の影響で、売上に対する燃料代の占める割合が依然として高いままである。
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・製紙、飼料、飲料といった得意先の各工場の生産に大きな変化は出ていない。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・各社とも受注量の減少が続いている。
やや悪くなっている	食料品製造業（団体役員）	それ以外	・ガソリン税の暫定税率廃止による恩恵はみられるものの、加工食料品の値上げが相次いでおり、生産コストが上昇している。生産コスト上昇分の価格転嫁も進んでいない。生鮮野菜類は天候に恵まれ、安定した供給量と価格形成になっているが、生鮮水産物は漁獲量の減少から価格が高騰しており、消費者の購買意欲は低下している。
	食料品製造業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・引き続き原材料価格が高騰しており、一度値上げしたものについても、更にもう一度値上げしようという動きがある。その一方で、販売価格の改定については、部分的に理解を得ることができても、なかなか実行できない状況にあり、利益率が低下している。

	家具製造業（経営者）	取引先の様子	・住宅着工数の減少が大きく影響している。消費マインドも低迷している。
	金融業（企画担当）	それ以外	・設備投資は大手企業が押し上げているが、道内中小企業は低迷している。原材料価格の上昇に対して大半の企業は価格転嫁が進んでおらず、収益環境は極めて厳しい。また公共投資の削減に加え、住宅着工戸数の減少は建設業を始め各業界に深刻な影響を与えている。
	司法書士	取引先の様子	・土地取引や建物の建築件数の減少など、状況が悪化している。
	その他非製造業 [鋼材卸売] (役員)	受注価格や販売価格の動き	・鋼材を中心に値上げが進んでいるなか、中国需要が急進しているため、価格が後追い状態となり、受注物件において利益を確保するのが困難な状況となっている。また、受注量は増えているが、一部の材料が入手できないため、高い材料を購入しなければならず、当初予定の利益が確保できない。
悪くなっている	通信業（営業担当）	取引先の様子	・最近になり、客が価格に対して敏感になっている傾向が強まっている。また競争相手の価格攻勢も再度強くなっている。沈静化していたデフレ方向への圧力、動きが再度強まったことから、景況感としては悪化している。
	その他サービス業 [建設機械リース] (営業担当)	受注量や販売量の動き	・建設投資が減っているなか、原材料高騰の影響で一層の受注額の減少圧力が強まっている。
雇用関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	学校[大学] (就職担当)	雇用形態の様子
	変わらない	求人情報誌製作会社(編集者)	それ以外
		職業安定所(職員)	求人数の動き
		職業安定所(職員)	求人数の動き
やや悪くなっている	人材派遣会社(社員)	周辺企業の様子	・広告代理店数社と話をしたが、広告費の削減が顕著であり、各企業の業績の低迷を裏付ける格好となっている。建設・ハウスメーカーとの話からは、住宅は極端な需要の落ち込みが目立っている。また、当社では、新聞社との共催の転職フェアでの参加企業の獲得に向けて営業活動を行っているが、各企業からは人材は確保したいものの、参加費用のねん出が困難なほど業績の落ち込みが激しいとの話を聞く。
		職業安定所(職員)	求人数の動き
悪くなっている	求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・求人数は前年を1割程度下回っている。コールセンター、派遣、道外の業務請負以外は軒並み前年割れしており、特に、建設、運輸・物流などは前年から20%の減少となっている。小売業も前年から15%の減少となっている。